

## 182-10 画家

構想をデッサンし、画材を使って描写・彩色するなどして、絵画作品を創作して発表する。

まず、構想を練り、コンテ・画用木炭・画用鉛筆などを用いて画布・画用紙上にデッサンする。テーマ、画題に最も適する画材を決め、自らの画法により油絵、水彩画、版画、水墨画などを制作する。

個展を開き、展覧会に作品を出品し発表する。他人の出品作品を審査することもある。また、弟子の制作指導や講師依頼に応じて絵画作品制作の講義を行うこともある。

美術の研究、制作指導、作品の発表などにより、わが国の芸術・文化の向上と発展、普及に寄与する。

日標-182 S44辞典-132-10 S61分類-132-10

H9HB-0 HB1.1-0 OHBY-1

⇒ 商業デザイナー(184-10) 陶磁器画工(536-10)

画工(724-10) 看板制作工(724-20)

## 182-20 書家

筆と墨を用いて紙や木などの素材に自らの筆法で和・漢の文字を書き、書作品を創作して発表する。

まず、詩歌、経文、銘文などの題材に応じて、楷書・行書・草書その他の筆法を決める。毛・草・竹製の筆、松煙・油煙製の墨、各種の硯、各種の紙・木などの材料を選ぶ。墨を磨って墨汁を用意し、筆で紙または木に書作品を創作する。

自らの書の個展を開き、展覧会に作品を出品し、発表する。他人の出品作品を審査したり、テレビなどに出演して書の解説を行ったり、講師依頼に応じて書の制作に関する講義を行うこともある。題字など依頼を受けた文字を書いたり、賞状を書くこともある。

日標-182 S44辞典-0 S61分類-132-20

H9HB-287 HB1.1-1 OHBY-0

⇒ 商業デザイナー(184-10) 看板制作工(724-20)

## 182-30 漫画家、イラストレーター

ストーリーやセリフを考え、絵を描いて漫画を創作し、単行本として刊行したり、雑誌などに発表したりする。また、本の挿絵などのイラストを描く。

漫画家は、まず、ストーリーやキャラクターを考え、想像や空想を織り交ぜながらテーマを設定して話を膨らませる。編集者と打ち合わせを行い、誌面展開やセリフなどの細部を考え、コマ割りを行って原案を作成する。専用の用紙に鉛筆で下書きを行い、ペンで清書をする。塗りつぶす部分をべた塗りし、下書きの線を消しゴムで消す。背景などの仕上げを行い、作品を完成させる。

また、イラストレーターは、出版社などから依頼を受け、イラストの題材や内容などを打ち合わせる。イメージを膨らませて原案を考え、鉛筆などで下書きを行う。ペン、水彩、色鉛筆、クレヨンなど指定された方法で清書を行い、はみ出しなど細部を調整して作品を仕上げる。

日標-182 S44辞典-0 S61分類-132-14

H9HB-286,287 HB1.1-1 OHBY-1

⇒ 商業デザイナー(184-10) 陶磁器画工(536-10)

画工(724-10) 看板制作工(724-20)

## 183-10 工芸美術家

金工芸、陶磁器、漆工芸、木竹工芸、ガラス工芸、染色工芸、織物工芸、刺繍工芸、モザイク工芸などの工芸美術品を創作する。

漆工芸家は、まず、木、竹、皮などの素材を用いて、容器、家具、箱などを製作する。それに、刷毛を用いて漆を塗る。漆に顔料を加えて着色し、絵柄や模様を書き込み、芸術的な作品として完成させる。

また、刀鍛冶工は、原料となる鋼を炎の中に入れて加熱し、ハンマーで叩いて形を整え、水の中に入れて冷却する。この工程を繰り返して刀を鍛え、徐々に刀の形に成形し、日本刀などの観賞用の刀剣に仕上げる。

陶芸家は、土の中から材料となる粘土を取り出す。水を加えてよく練り、花瓶や茶碗などの形に成形する。ろくろを用いて成形することもある。うわ薬をかけて独自の染色を施し、釜で焼いて作品に仕上げる。

日標-183 S44辞典-133-10 S61分類-133-10

H9HB-0 HB1.1-0 OHBY-1

⇒ 陶磁器製造工(535-10) 陶磁器画工(536-10)

七宝工(539-20) 指物職(664-10) 漆工(715-10)